

# 公 民

## 現 代 社 会

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

令和3年度（第1回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）が実施された。共通テストは、大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ）の段階における基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としており，この目的自体は，従前の大学入学センター試験（以下「センター試験」という。）と基本的に同じである。

一方，共通テストでは，平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっている。「現代社会」においても，現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視し，文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用して考察する力を求めるとされ，図や表など多様な資料を用いて，データに基づいて考察し判断する力などを念頭においている。

ここでは，本年度の問題について以下の視点から分析し，上記の共通テストの目的や趣旨が実現されているかどうかについて評価したい。

- ・ 問題作成方針を踏まえて，知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め，バランスのとれた出題となっているかどうか（出題のねらい）
- ・ 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており，特定の分野・領域に極端に偏っていないかどうか（出題範囲）
- ・ 出題される資料等が，特定の教科書に偏っていないかどうか（題材）
- ・ 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，その場面設定が，教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されているかどうか（問題の場面設定）
- ・ 試験問題の構成（設問数，配点，設問形式等）は適切であるかどうか（問題構成）
- ・ 文章表現・用語は適切であるかどうか（表現・用語）
- ・ 問題の難易度は適正であるかどうか（難易度）
- ・ 得点のちらばりは適正であるかどうか（得点のちらばり）

#### 2 内容・範囲

全体を通して，内容や範囲での偏りはなく，学習指導要領に定める範囲で出題されている。領域内容のリード文ではなく，生徒が主体となって学習を進める場面設定をするという工夫は高校現場へのメッセージであると考えられる。実生活から出発する問いが多く出題され，「現代社会」という

科目の性格を意識した切り口を示したことも評価できる。

また、小問ごとに生徒の発表原稿や生徒同士の会話文から資料を提示することで、一方で具体的な事象を抽象化させて考察させたり、他方で抽象的な概念を具体的な事象に当てはめて考えさせたりする出題の工夫が見られ、知識に加え、思考力・判断力・表現力等がバランス良く問われた。単に教科書で習う概念を記憶するだけでなく、学習した内容を特定の分野・領域に偏ることなく関連づけて考察する必要があるという出題者からのメッセージが込められている。

しかし、思考の根拠や過程を重視したために、問いかけが複雑なものや、一つの設問にかかるページ数が多い問題が出題されたことで小問ごとに考察して解答を導き出す時間配分に受験者は戸惑ったのではないだろうか。

第1問 「現代社会」の授業を題材とした問題文から出題された。主に法や政治分野における基本的な知識の理解が求められた。一方、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題もあり、バランス良く出題された。難易度は標準的である。

問1 日本の近代思想について、資料を基に、基礎的・基本的な知識を活用して、日本の近代化の特徴を考察させる問題である。中江兆民について出題された資料（著作）は、「倫理」では扱うが、「現代社会」での出題としては難しかった。

問2 権力分立について、資料を基に、基礎的・基本的な知識を活用して、モンテスキューの権力分立の特徴を考察させる問題である。権力分立の本質を考えさせようとする良問である。

問3 権力分立について、資料を基に、基礎的・基本的な知識を活用して、ロックの権力分立の特徴を考察させる問題である。なお、問2、3と否定的な解答が続いたことに受験者は戸惑ったのではないか。

問4 現代日本の司法についての知識を問う、標準的な問題である。

問5 日本の刑事訴訟についての知識を問う、標準的な問題である。

問6 日本の民事訴訟についての知識を問う問題である。裁判外紛争解決手続法（ADR法）など比較的新しい制度が問われ、やや難しかった。個別の法制度を単に問うだけではなく、刑事訴訟と民事訴訟の概念を問う出題順の工夫が感じられた。

問7 現代日本の行政についての知識を問う、標準的な問題である。

問8 国政選挙における政党について、資料を基に、基礎的・基本的な知識を活用して、政党の志向性を考察させる良問である。模式図の提示には、新たな可能性が感じられた。

第2問 環境問題に対する生徒の取り組みが題材にされた。環境問題を軸に、幅広い分野における基本的な知識の理解が求められた。思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題もバランス良く出題された。難易度としてはやや難しかったといえる。

問1 循環型社会の3Rについて、概念や理論を活用し、具体的施策を考察させる問題である。3Rを「優先順位の高い方から」答えるという指示があるが、教科書によっては、優先順位の記述はなく、受験者は戸惑ったかもしれない。

問2 資料を基に、民主主義における意思決定の方法を考察させる問題である。良問であるが、解答に時間が掛かったと思われる。難易度としては、やや難しかった。

問3 政治的意思決定についての知識を問う、標準的な問題である。問2に関連して、政治的意思決定の視点から分野横断的に、従来とは異なった形式で命題が構成された。

問4 自然と人間との関係についての知識を問う、標準的な問題である。従来は、語句を先に出してその説明を選ばせる方式だったが、この問題は先に説明があり、それに該当する語句を選ばせる順序であった。

問5 政治や経済に関する諸制度についての知識を問う問題である。選択文の中に、一般特恵関税制度などの語句があり、「現代社会」の出題としては難しかった。

第3問 市場経済と政府の役割に関する学習をテーマに、主に国際経済と国内経済（商品市場と労働市場の概念について幅広く）、労働法規における基本的な知識の理解が求められ、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランス良く出題された。会話文の提示方法が新鮮で、難易度は標準である。

問1 日本の経済成長率について、基礎的・基本的な知識と資料を基に、時代背景とともに経済成長の変遷を考察させる、良問である。難易度が高い問題で、1980年代を直接的には選ぶにくく、消去法での解答となるのではないかと。

問2 会話文を基に、GDPについて、概念や理論を活用し、日本のGDPの構成要素を考察させる、良問である。

問3 会話文は解答にそれほど関係なく、国際貿易についての知識を問う、難易度が高い問題である。㊸が難解で、日本とアジア諸国の水平・垂直貿易体制の変遷について出題しても良かったかと思われる。

問4 会話文は解答にそれほど関係なく、景気変動とその安定化に関して、概念や理論を活用し、政府の役割を考察させる問題である。㊸㊹は景気安定のための政府の役割を考察する必要があった。

問5 会話文を基に、公共財について、概念や理論を活用し、その非排除性を考察させる問題である。

問6 表の資料を基に、財・サービスについて、概念や理論を活用し、その非競争性と非排除性を考察させる、良問である。

問7 会話文を基に、労働市場について、概念や理論を活用し、需要と供給を考察させる問題である。紙面に余裕があれば、需給曲線を関連づけて出題しても良かったかと思われる。

問8 労働法規についての知識を問う、出題方法は標準的な問題である。出題内容は「政治・経済」で扱うようなより専門的な知識が問われた。

第4問 教科書に出てくるアルファベットの略語に関する学習をテーマに、時事的問題や防衛機制、人権保障、国際政治について基本的な知識の理解が求められた。資料などを参考にして思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランスよく出題された。小問ごとに難易度の差異にばらつきが見られた。場面設定に関する工夫が見られたが、今後も更なる場面設定の工夫をしていただきたい。

問1 会話文とアルファベットのカードを基にした、情報社会や医療技術、生命倫理、青年期に関する問題。生命倫理に関する幅広い知識が必要とされ、「SOL」より「QOL」を扱っている教科書が多かったために、受験者は戸惑ったのではないかと。

問2 防衛機制「合理化」の有名な寓話に関して、概念や理論を活用し、防衛機制を考察させる標準的な内容の問題である。

問3 臓器移植法に関して、概念や理論を活用し、脳死判定後に臓器を提供できるケースを考察させる問題である。時事要素を含んだ具体的事象に関して、法律の正しい解釈を必要とする問題である。

問4 人権保障の広がりに関して、概念や理論を活用し、日本の法制度について考察させる問題である。㊸については、時事的な事象に関する知識を必要とした。適当でないものを選ぶことに受験者は戸惑ったのではないかと。

問5 青年期の発達についての知識を問う、標準的な問題である。青年期の問いは大切であり、

今後も出題を望む。

問6 アルファベットのカードを基に、国際社会の概念を問う問題である。「IPCC」については扱っている教科書が少なく、より専門的な知識が必要とされ、かつ、適当でないものを選ぶことに受験者は戸惑ったのではないか。

第5問 現代日本における買い物弱者問題をテーマに、資料と会話文から思考力・判断力・表現力等が求められる読み取り問題。様々な資料や会話文を組み合わせた新しい出題形式で、難易度は標準である。普段から資料読解に興味・関心をもち、時間を掛けて資料や会話文を読み取る必要があり、受験者は戸惑ったのではないか。問3で国語的な能力が必要となる会話文を出題するならば、問2は「なぜ」を問う思考の根拠や思考の過程を会話文以外で出題できなかったであろうか。

問1 高齢者を中心とした食料品の買い物に関する二つの地域のアンケート結果を読み取る資料読解問題。標準的な読み取り問題である。

問2 二つの資料を基にした会話文から思考の根拠を読み取る資料読解問題。時間を掛けて読み取れば正答を導き出せる標準的な読み取り問題であるが、受験者は時間配分に戸惑ったのではないか。新しい出題形式であるが、時事的な事象に関する知識を必要としなかった点は残念である。

問3 福祉政策などの再配分について、会話文を基に思考のプロセスを導き出し、公正と正義とは何かを考察させる良問である。

### 3 分量・程度

大問5問、小問30問で昨年度（大問6問、小問36問）と比べると、変化があった。大問数、小問数ともに減ったが、読む資料が増えたため、時間がより掛かったと思われる。このことは、問題冊子のページ数が昨年度の30ページから35ページに増えたことから明らかである。小問数の減少にともない、昨年は2点又は3点問題だった配点が、今年度は3点又は4点に変わった。

知識を単純に問う問題に対して、複数の資料などの読み取りなどを通して、知識の活用や思考を要する問題が昨年度より増えた。時間のわりに、読む量と考える問題が多くなったことは、全体として得点が伸びなかったと考えられる大きな要因であろう。受験者数は、68,983人であった。公民科の科目間では得点調整が行われ、平均点は、調整前が51.96点、調整後は58.40点となり、昨年度センター試験の平均点57.3点に近づいた。標準偏差は、調整前が15.65で、調整後は15.82となり、標準偏差から見て、得点のちらばりは、公民科の他の科目と大きな差はない。

### 4 表現・形式

「現代社会」の授業や定期試験に向けた学習で、授業内容をまとめたカード作成やカードゲーム感覚の勉強など、高等学校の学習過程を意識した構成となっている。昨年度までのセンター試験と異なり、場面設定を行うことで、知識だけでなくそれを基に思考力・判断力・表現力等を発揮して考察する問題が追加されている。

問いの形式については、30題中15題が四つの選択肢から正答を選択する問いであり、六つの選択肢は7題、八つの選択肢は6題、九つの選択肢は1題であった。設問の文章や資料の量に加え選択肢の数も増えたことで、受験者にとって問題を解くための負担が大きかったと予想される。

第5問では、「買い物弱者問題」という社会的事象について、多面的・多角的に考察した過程や結果を、客観的な資料など根拠に基づいてまとめる力を問われている。資料を適切に活用する力や根拠となっている考え方を問う設問に対応するには、探究学習を行うことなどを通して、様々な考え

方をいくつかの観点から分類・整理する能力の育成が必要になる。

## 5 まとめ（総括的な評価）

全体的に、多様な資料を活用して多面的・多角的に考察する過程を重視した問題が多く、知識と思考の設問のバランスも取れている。授業での発表や会話など、実際の学習活動を想定した場面設定が工夫されていることは、生徒にとって学習へのイメージが湧きやすく、主体的な学習が重要であることのメッセージにもなっている。複数の資料を活用して思考力・判断力・表現力等を働かせて解く問題が複数出題されることにより、普段の授業から、多様な資料を用いて適切に情報を読み取り、精査した情報に基づいて考察するような資料読解力を意識した授業の必要性が喚起され、授業改善への呼び水となるので、複数の資料を活用して解く問題のバリエーションをさらに増やしてほしい。

一方で、一部には現代社会の2単位の授業時間では扱うことが難しいと思われる内容や、問い方が複雑なものが見られた。なお、設問で用いられる資料が多くなれば、複数ページにまたがって資料が提示されるのも仕方ないが、受験者にとってより解きやすい配置になるよう配慮を望みたい。

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

TEL 03-3333-7771

#### 1 前 文

出題内容は、高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に示された教科および科目の目標および内容におおむね則しており、基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や涵養<sup>かんよう</sup>した思考力や判断力を用い、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか、さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。問題作成には多くの困難があったものと推察される。基礎的基本的な知識とは何かを確認すること、その基礎的基本的な知識を問うに当たり単に知っているか否かを問うのではない工夫を施すこと、さらに思考力や判断力を問うこと、一定の平均点を確保すること、試験時間内にひととおりに解き終わること、他教科あるいは他科目との出題内容の重複を避けること、高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること、大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること、そして何より大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の初回として広く社会に誇れるものであることなど、出題者の努力には敬意を表するものである。来年度さらなる良問を作成し、高校生の学びの成果に添えていただくべく、後期中等教育の現場にあって公民科を与える立場から意見と評価を申し述べたい。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

問題数は30、大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）が34～36問であったことと比べると減少し高校生の負担が軽減されたように見えるが、実際は個々の問題を解くに当たり読み取る量のはるかに多いことから解答時間が足りない高校生あるいは問題文の読解に力尽きて問を解くところまでたどり着かなかった高校生もいることだろう。読解力も公民科で培われる学力のうちとすれば、大量の文章や資料等を読ませる意義はある。また、情報の取捨選択をして限られた時間内に大量の情報を処理する能力も公民科で培われる学力のうちとすれば、大量の文章や資料等を読ませる意義はある。ただ、そこにはじっくり読んで考える高校生は求められていないというメッセージが込められていることは留意したい。共通テストと改められたがゆえに問われる課題であろう。「現代社会」を入試科目として選ぶ高校生の平均的な学力を考えれば、読解に要する文章等の情報量が増えれば平均点が大きく下がるのは避けられない。知識のみで解ける問題を極力減らし、思考力や判断力、資料活用能力を試す問題が増えたのは共通テストの意図を出題者が十分汲み取ったからである。汲み取った分だけ、設定にこだわりすぎて問いとは関係の薄い部分で冗漫になり、かえって煩雑で、読み飛ばしても正答が得られる問いもある。学習指導要領は同じであることからこれまでのセンター試験で問われている知識は同じであることは当然で、難易度も同程度である。試行調査と比べると問題数が3問減少し、最高裁の判決文の並べ替えや古典の空欄補充など特徴的な問題が消えた。

第1問 歴史を知り思想を学ぶことの重要性から、西洋思想の日本への受容、西洋近代政治思想、日本の司法、行政について、基礎的基本的な知識を問う。

- 問1 西洋思想の日本への受容について、福沢諭吉と中江兆民の思想を著作の一部から判断する問い。思考力判断力を問いたいところだが、結局、「恩賜的民権」「恢復的民権」という表現からアが中江兆民であり、「実学」「身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり」からウが福沢諭吉と分かる知識の問いで終わっている。
- 問2 モンテスキューの思想について二つの資料を比較して考える工夫された問い。ただし「合致しているものはない」を選ばせるのは教育的ではなく選択肢から外してほしい。
- 問3 モンテスキューとロックの権力分立論を比較する問。標準的な問い。ただし、AとBどちらも「誤」が正答というのは教育的ではなく、やめてほしい。
- 問4 現代日本の司法に関する基礎的基本的な知識を確認する。高校生の考え方では、①裁判は公開が原則だから誤文、②正文、③最高裁判所長官は内閣が指名し天皇が任命するから誤文、④弾劾裁判所は衆参両院で構成されるから誤文、と見抜いていくだろう。
- 問5 現代日本の刑事裁判について基礎的基本的な知識を確認する。高校生の考え方では、①和解は民事裁判で見られるから誤文、②検察審査会の審査員は成人の一般市民から選ばれるから誤文、③再審についての説明として正文、④被害者参加制度はあるものの裁判員としての参加ではないから誤文、と見抜いていくだろう。
- 問6 現代日本の民事裁判について基礎的基本的な知識を確認する。高校生の考え方では、①ADR法についての説明としては正文、②公害問題における無過失賠償責任があったので誤文、③労働問題と混乱していると見て誤文、④所有権と契約自由の原則の間違えと見て誤文、と見抜いていくだろう。ただ、教科書でADR法を扱う例は少なく、民事について授業で丁寧に扱うことは少ない。司法に関する問をここで三つ続けるのは何のメッセージなのか。裁判員裁判に関心をもってほしいからか、民法上の成人年齢が18歳に下がることを意識してほしいからなのか。
- 問7 現代日本の行政に関する基礎的基本的な知識を問う。時事的な側面があり苦手とする高校生は一定程度いるだろう。
- 問8 試行調査でも出題されていた4象限の問い。政策の違いを政党の志向制に基づき分類して比較する思考力判断力の問い。平易な問いではあるが共通テストとしての良問である。
- 第2問 マータイ氏の「もったいない」を出発点に生徒が考えた発表から環境、政治、経済についての基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。リード文は秀逸であり高校生にはぜひ読ませたい文章であり、出題者の心意気を感じさせる。しかし、設問との関連性が薄く、リード文が熟読されなかったのではないかと危惧される。
- 問1 循環型社会形成推進基本法の下での施策の優先順位を問う新傾向の問い。リデュース、リユース、リサイクルの順序を問う基礎的基本的な知識を問う。
- 問2 投票のパラドクスに関する問い。読解力と思考力を問う。合成の誤謬とも関係する。思考力を問う良問。ここで問われた思考力は単に「現代社会」のみならず全ての教科科目で問われる学力だろう。
- 問3 意思決定から、アメリカ連邦議会、日本の国会と地方自治について基礎的基本的な知識を問う。
- 問4 宇宙船地球号と生物多様性についての基礎的基本的な知識を問う。用語の選定に難あり。どういう意図でアニミズムを選択肢に加えたのか疑問だ。
- 問5 環境条約、核拡散防止条約、一般特惠関税制度についての基礎的基本的な知識を問う。条約の内容全てを理解していなければならないという点では悩むかもしれないが、選択肢はすべて「公正さ」を主題としており出題の意義は大きい。



第3問 市場経済と政府の役割に関する基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。会話文を苦労して作成した割には、リード文としての会話文を使いきれていないのは残念。会話文を読まなくても解ける問いが多い。小問を解きながらひととおり経済分野について理解を深める仕掛けになっている。

問1 第二次世界大戦後の日本経済の発展の特徴を経済成長率のグラフから考える思考力判断力の問い。

問2 GDPを構成する内容を具体例から選ぶ基礎的基本的な知識の問い。

問3 国際貿易についての基礎的基本的な知識を問う。①水平貿易と垂直貿易, ②非関税障壁, ③貿易収支と為替レートの関係, ④ガットのウルグアイ・ラウンド交渉について問う。

問4 景気変動と財政の機能についての基礎的基本的な知識を問う。

問5, 6 非競争性と非排除性についての思考力判断力の問い。文章を読み取り, 基礎的基本的な知識をつないで考えることで正解が得られるよう工夫された良問である。

問7 労働市場における需要と供給について考える問い。

問8 労働法についての基礎的基本的な知識を問う。④の労働新盤制度の選択肢がやや難しいか。

第4問 「現代社会」で学習する基本用語の知識を問う。新傾向に挑戦したのであろうが, 会話文を読まずして正答が得られるばかりか, 問われている内容が浅薄であり, もう一工夫していただきたい。

問1, 6 アルファベットの略語の知識を問う。わざわざアルファベットのカードの組み合わせとすることが必要があるか疑問だ。

問2 防衛機会の合理化についての基礎的基本的な知識を問う。

問3 臓器移植についての基礎的基本的な知識を問う。

問4 人権についての基礎的基本的な知識を問う。障害者雇用について根拠となるのが障害者雇用促進法であることを確認する問い。

問5 青年期の発達について基礎的基本的な知識を問う。平易な問い。

第5問 買い物弱者問題について統計資料の読解に基づき考える思考力判断力の問題。最後に平易ながら時間の掛かる問題を置いたところにも出題者の意図が感じられる。試験開始の合図とともに「現代社会」の全体を見通して解いてこないと, 時間が足りなくなる。

問1 買い物難民を主題とした資料読解問題。選択肢を資料に基づき丁寧に読み込んでいけば正答は容易。

問2 設定が複雑で, 読解に時間は掛かるが, 選択肢を資料に基づき丁寧に読み込んでいけば正答は容易。

問3 選択肢を資料に基づき丁寧に読み込んでいけば正答は容易。



### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、図や表など、多様な資料を用いて、データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

#### 2 各問題の出題意図と解答の結果

第1問では、学習指導要領の「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「青年期と自己の形成」、「現代の民主政治と政治参加の意義」及び「個人の尊重と法の支配」の領域を中心に、日本の思想、政治機構、政治体制、現代日本の司法、刑事事件に関わる法制度や裁判手続き、民事の法制度と紛争解決及び選挙と政策に関わる知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。ミニリード文では、様々な思想がどのように制度に反映され、変容してきたのかという問題意識の下に各設問へとつなげた。小問においては、問3でロックやモンテスキューの権力分立論の特徴を踏まえた上で、現実の政治制度との関係を取り上げることで、概念や理論等を活用し、制度の意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問8では、選挙と政策に関して、様々な政策争点が存在する中で、論点を整理し、分類することを通して、概念や理論等を活用し、政策の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。正答率及び識別力については、全体としてはおおむね適正であったが、問1、問6及び問7の正答率が低かった。問1は、古典の正確な理解を要求されたことから難易度が高かったものと思われる。これから生きていく新しい時代の新しい問題について主体的に考察していくためには、日本や、それを取り巻く世界が、今日の姿に至るまでにどのように発展してきたのかという歴史や、その背景にある思想などを深く理解することが必要であると考え。問6、問7に関しては、民事の法制度や行政についての正確な知識が要求されたことから難易度が高かったものと思われるが、成人年齢の引下げや裁判員裁判への参加の可能性という点からも必要となる知識である。

第2問では、学習指導要領の「私たちの生きる社会」や「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の民主政治と政治参加の意義」や「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」の領域を中心に、環境問題とその取り組み並びに、民主的決定方法、各国間の差異と協力、持続可能な開発に関わる知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して作問した。全体の構成としては、マータイ氏が注目した「もったいない」という言葉をきっかけとして、その多様な側面を提示することにより、複数の分野にまたがる事項を相互に関連付けながら出題することを目指した。小問においては、問2で幸福・正義・公正にも直結する民主的決定方法に関して、計算や考察を通して、民意という概念や、投票方法の制度の意味や意義を解釈することができる力を問うことを意図した。問3とのつながりのなかで、その意図がより明確に示されている。正答率、識別力については、全体としては適正であったが、問5の正答率が低かった。核拡散防止条約及び一般特恵関税制度の正確な理解が必要であったことが正答率を下げたと考えられるが、単に条約名・制度名を暗記するだけでなく、それらの内容や意義・問題点まで理解することが重要である。

第3問では、学習指導要領における「現代社会と人間としての在り方生き方」の中の「現代の経済社会と経済活動の在り方」の領域を中心に、市場経済の機能に関する知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。ミニリード文では、対話的な授業風景を通じて、

市場経済における政府の役割の重要性について考えさせることを目指した。小問においては、問1で、時代別の実質経済成長率のグラフを用いて、具体的な時代背景とともに経済成長の変遷を理解する力を求めた。問5では、公共財の性質に関する教師と生徒の対話を通して、市場の失敗が生じる原因について思考・判断する力を問うことを意図した。問6では、財・サービスを非競合性と非排除性の有無に基づいて分類させることで、これらの概念について思考・判断する力を問うことを意図した。正答率・識別力ともに、全体的には適正であったが、問1は、問題全体に比べて正答率、識別力ともに顕著に低かった。個別の事象だけではなく、大きな流れを意識した理解が求められる。

第4問では、学習指導要領における「私たちの生きる社会」から「現代社会における諸課題」の情報、生命について、また「現代社会と人間としての在り方生き方」から「青年期と自己の形成」、「個人の尊重と法の支配」、「現代の経済社会と経済活動の在り方」の労働、経済、自己実現についての知識及び思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。高校生がカードを用いて現代社会の教科書に出てくる略語を勉強するという場面設定により主体的に学習する態度を強調しながら、幅広い領域の基本的な事項について出題することを意図した。問4は、正答率が3割弱と非常に低く、識別力も極めて低かった。正答率が低い要因として、(1)教科書では「障害者基本法」が名称のみで内容の記述が少なく、③の命題の適否が判断しにくかったこと、(2)時事的な事項である②は受験者にとって必ずしもなじみがなかったことの2点が推測される。問6は、事項の精密な理解が求められるため、正答率が非常に低かったが、成績が最も上位の層と他の層とを分ける識別力を有していた。

第5問では、学習指導要領の「共に生きる社会を目指して」領域を中心に、買い物弱者問題をテーマに、地域や学校、生徒の実態に応じて課題を設定し、持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、概念や理論を活用して考える力、様々な立場からの主張を根拠に基づいて多面的・多角的に考察する力などの、思考力・判断力・表現力等を問うことを意図して問題を作成した。小問においては、資料を正確に読解すること、生徒間で意見が異なる場面をもとに、意見の根拠となったデータと意見の元となった解釈の連関について正しく判断すること、政治や経済についての異なる立場を示した文章に基づいて、異なる意見の背景にある立場について判断することを求めている。問1では比率の性質の違いとともに、人口に関する用語（老年人口）の理解についても問うている。いずれの小問も正答率は従来の資料読解問題よりも適切な水準となり、識別力も高かった。

### 3 出題に対する反響・意見についての見解

第1問の問2、3で、「合致しているものはない」や「誤」を選ばせる選択肢が正答となったことについて、教育的配慮をしながら選択肢を作成してほしいとの指摘を頂いた。なぜ合致しないのか、なぜ誤りなのかを考えることの意義が、受験者が問題を解いていく過程で理解できるように示されているなら、「合致しているものはない」「誤」を選択させることそのものに問題はないと考える。今後、そういった出題意図が十分に伝わるような問題作成を心掛けたい。問8については、模式図を提示して、政党の志向性を問う形式が、共通テストとして良問であり、授業改善へのメッセージ性があると評価された。

第2問については、場面設定に関して、様々な分野への広がりがあると肯定的に評価された点、また、思考力・判断力・表現力等を問うために特に重要な小問と捉えていた問2に関して、工夫のある良問と評価された点が喜ばしい。リード文が秀逸で高校生にぜひ読ませたい文章との評価もいただいた。マータイ氏について、他科目も含めて、記載のある教科書とない教科書とがあり、有利不利が出る可能性もあったとの指摘を受けたが、本問は知識としてマータイ氏を知っているかどうか

かは解答に影響を与えず、問題はなかったと考えている。問3について、パターン化の懸念があるため、空欄に語句を入れる形式よりも、文章の形式が望ましいのではないかとの意見をいただいたが、問2とのつながりや大問全体の難易度に鑑み、今回はこの形式での出題がもっとも望ましかったと考えている。知識を主に問う小問について、出題形式の工夫を引き続き検討したい。

第3問のミニリード文については、会話文の提示方法が新鮮という評価を頂いたが、会話文を読まなくても解ける問題が多いとの指摘も受けた。リード文と小問の結び付きについては、今後の作題に当たっての課題である。問1に対しては、時代背景とともに経済成長の変遷を考察させる良問との評価を頂いた一方で、1980年代を選ばせることについては、他の年代ほどの顕著な特徴がなく、難易度が高い問題であるとの指摘も受けた。解答を求める事柄の妥当性の検討が今後の課題である。問7には、需給曲線を関連付けて出題してもよかったのではないかという指摘を受けた。図表を活用した作問については、全体の分量や受験者の負担を考慮しながら、今後も取り組んでいきたい。

第4問全体については「場面設定に関する工夫が見られたが、今後もさらなる場面設定の工夫をしていただきたい」との評価を頂いた。場面設定の意図は肯定的に受け止められたものの、アルファベットのカードを用いた学習の意義が見出しづらいなどの限界があったと認識する。場面設定の意義をより高めることを今後の検討課題としたい。問1については、「会話文とアルファベットのカードを基に、情報社会や医療技術、生命倫理、青年期に関する問題、生命倫理に関する幅広い知識が必要とされた」と指摘された。略語を糸口に幅広い知識を問うという本大問の趣旨が理解されたと認識する。問3については、「時事要素を含んだ具体的事象に関して、法律の正しい解釈を必要とする問題である」と評価された。本大問については、単純な知識を問う小問だけでなく、思考力や判断力・表現力等を問う小問も随所に組み込んだ点が、「資料などを参考にして思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランス良く出題された」という全体的な評価につながったものと理解している。

第5問は様々な資料や会話文を組み合わせた「新しい出題形式」との評価を頂いた。一方で「時間を掛けて資料や会話文を読み取る必要があり、受験者は戸惑ったのではないか」という意見、また問2については、「時事的な事象に関する知識を必要としなかった点は残念である」「『なぜ』を問う思考の根拠や思考の過程を会話文以外で出題できなかつたであろうか」という意見を、それぞれ頂いた。学習指導要領にある事項に基づいて、意見を形成する際にはデータ等の根拠に基づかせること、それと併せて他者の意見を評価する際にも、いかなる根拠に基づいているかに着目することが重要であると考え、会話と資料を併せる形式の出題となった。探究学習などを通して、様々な考え方をいくつかの観点から分類・整理する能力の育成が必要である。ご指摘のあった点は今後の作題に当たって留意したい。

#### 4 今後の問題作成に当たってのまとめ

全体を通して、共通テストの意図が汲み取られ、知識のみで解ける問題が減り、思考力・判断力・表現力等、資料活用能力を試す問題が増えている、内容や範囲での偏りはなく、学習指導要領に定める範囲でバランス良く出題されている、という評価を頂いた。また、生徒が主体となって学習を進める場面設定や、多様な資料を活用して多面的・多角的に考察する過程を重視した問い、実生活から出発する問いが多く出題されたことは、授業改善へのメッセージであるとともに、具体的な事象を抽象化させて考察させたり、他方で抽象的な概念を具体的な事象に当てはめて考えさせたりする「現代社会」という科目の性格を表しているという評価も頂いた。このように、場面設定を工夫したことに対する評価がある一方で、問いとは関係の薄い部分で冗漫になり、かえって煩雑で、読み飛ばしても正答が得られる問いもあったという指摘を受けた。問題を解くに当たっての煩雑さや無

駄な情報をできるだけ減らし、一つひとつの問題にじっくり取り組む余裕のあるような作問を目指すことは、引き続き重要な課題であると考えている。